

DL 用

社会福祉法人経営実務検定試験 会計3級

確認テスト 答案用紙

第1章

簿記の基本

問題：P.37

①

(1)

(単位：円)

	当期の収益	当期の費用	当期の利益
A社	242,000	192,000	()
B社	180,000	()	35,000
C社	()	220,000	60,000

(2)

(単位：円)

	期首の純資産	当期の利益	期末の純資産
A社	250,000	()	300,000
B社	()	35,000	225,000
C社	315,000	60,000	()

第3章

仕訳と転記

問題：P.67

1

- (1) 会計の基本的な帳簿である仕訳帳と総勘定元帳を総称して（ ）という。

- (2) 計算書類が完成するまでの複式簿記の手続きは、発生した取引に基づいて（ ）に仕訳を行い、その結果を、勘定口座を綴った（ ）に転記し、転記の正否を確かめるため試算表を作成し、決算整理事項を記入した精算表を作成して計算書類を作成する流れとなっている。

2

現金預金

○年 月 日		摘要	借方	貸方	差引残高
3	1	前月繰越	—	—	51,722
	5			25	

事業未収金

○年 月 日		摘要	借方	貸方	差引残高
3	1	前月繰越	—	—	0

未収補助金

○年 月 日		摘要	借方	貸方	差引残高
3	1	前月繰越	—	—	0

器具及び備品

○年 月 日		摘要	借方	貸方	差引残高
3	1	前月繰越	-	-	1,792

事業未払金

○年 月 日		摘要	借方	貸方	差引残高
3	1	前月繰越	-	-	925

その他の未払金

○年 月 日		摘要	借方	貸方	差引残高
3	1	前月繰越	-	-	0

職員預り金

○年 月 日		摘要	借方	貸方	差引残高
3	1	前月繰越	-	-	0

保 育 事 業 収 益

○年 月 日		摘要	借方	貸方	差引残高
3	1	前月繰越	—	—	98,539

職 員 給 料

○年 月 日		摘要	借方	貸方	差引残高
3	1	前月繰越	—	—	56,391

非 常 勤 職 員 給 与

○年 月 日		摘要	借方	貸方	差引残高
3	1	前月繰越	—	—	14,758

保 育 材 料 費

○年 月 日		摘要	借方	貸方	差引残高
3	1	前月繰越	—	—	3,243

消耗器具備品費

○年 月 日		摘要	借方	貸方	差引残高
3	1	前月繰越	—	—	3,571

通信運搬費

○年 月 日		摘要	借方	貸方	差引残高
3	1	前月繰越	—	—	382

手 数 料

○年 月 日		摘要	借方	貸方	差引残高
3	1	前月繰越	—	—	38

日常の会計処理 1

現金と預金

1

- (1) 小口現金の管理方法のうち、会計係が前もって一定額の現金を小口現金担当者に渡し、後日定められた日に使用した金額を小口現金担当者から会計係に報告して使用した金額を補給する方法を、() という。また、このとき小口現金担当者が記載する、小口現金の支払い明細を記入した補助簿を() という。
- (2) 小切手を用いて支払いを行うために保有する銀行口座を() 預金という。
- (3) 一般に() の補充方法には、定額資金前渡法と任意補給法などがある。
- (4) 小口現金の管理方法のうち、小口現金担当者の管理する小口現金有高が少なくなった時に、必要に応じて、出納職員から小口現金担当者に補給する方法を() といい、小口現金の支払い明細を記入した() を小口現金出納帳という。

2

	勘定科目	金額	勘定科目	金額
(1)				

第5章

日常の会計処理 2

事業収益・事業費用の会計処理

問題：P.104

①

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				
(6)				

2

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				
(6)				
(7)				

3

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				

第6章

日常の会計処理 3

その他の債権・債務

問題：P.132

①

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				
(6)				
(7)				
(8)				

2

- (1) 事業未払金に計上されている給食材料の代金を支払ったときの仕訳は、()と資産の減少として表される。
- (2) 預金口座に振り込まれたものの内容が不明であるときは、()の勘定科目で処理しておき、後日内容が判明したときに適切な勘定科目に振り替える。
- (3) 処理すべき科目が確定しない出金を一時的に処理する科目は()である。

第7章

固定資産の会計処理

問題：P.149

1

- (1) 会計基準には、支払資金として流動資産と流動負債とが定義されている。ただし、1年基準により（ ）又は固定負債から振り替えられた流動資産・流動負債、引当金並びに棚卸資産（貯蔵品を除く）を除くこととされている。
- (2) 令和2年1月10日に業務用のパソコンを168,000円で購入し、7,200円の設定費用とともに支払い、納入を受けた。このパソコンの取得価額は（ ）円であり、令和元年度の定額法による減価償却費は（ ）円である。ただし、減価償却の計算に際しては、残存価額をゼロ、耐用年数を4年（償却率0.250）とする。

2

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				
(6)				

3

No	取引の内容	計上される計算書類	
		資金収支 計算書	事業活動 計算書
①	業務用の洗濯機（固定資産）が壊れたので廃棄した。		
②	建物の減価償却費を計上した。		
③	決算に際して建物の減価償却を行った。		
④	コピー機（固定資産）を購入し、小切手を振り出した。		
⑤	給与計算ソフト（固定資産）を現金で購入した。		
⑥	パソコン（固定資産）が壊れたので廃棄した。		
⑦	車両（固定資産）を現金で購入した。		
⑧	冷蔵庫（固定資産）を購入し、代金を支払った。		
⑨	車輛運搬具に計上していた利用者送迎車を廃車にした。		
⑩	エアコン（固定資産）を購入し、代金を支払った。		

第8章

純資産の会計処理

問題：P.162

①

- (1) 貸借対照表の純資産は、()、国庫補助金等特別積立金、その他の積立金、次期繰越活動増減差額に区分する。

②

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				

③

No	取引の内容	計上される財務諸表	
		資金収支 計算書	事業活動 計算書
①	国庫補助金等特別積立金を積み立てた。		

第9章

決算 1 決算手続き

問題：P.179

1

- (1) 流動負債に表示される引当金は、() である。
- (2) 賞与引当金は、支払資金の範囲に ()。
- (3) () は、固定負債に計上される引当金である。
- (4) 「会計基準」では、支払資金として流動資産と流動負債とが定義されている。ただし、1年基準により固定資産又は固定負債から振り替えられた流動資産・流動負債、() 並びに棚卸資産（貯蔵品を除く）を除くこととされている。

2

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				

3

No	取引の内容	計上される計算書類	
		資金収支 計算書	事業活動 計算書
①	退職給付引当金を計上した。		
②	賞与引当金を計上した。		

第10章

決算2 計算書類の作成

問題：P.196

1

(1) 資金収支計算書の「差異」は、「()」から「()」を差し引いて算出する。

2

	科目	流動資産	固定資産	流動負債	固定負債	純資産
①	現金預金					
②	事業未収金					
③	職員預り金					
④	器具及び備品					
⑤	設備資金借入金					
⑥	土地					
⑦	仮払金					
⑧	貯蔵品					
⑨	前受金					
⑩	1年以内返済予定設備資金借入金					
⑪	基本金					
⑫	立替金					
⑬	国庫補助金等特別積立金					
⑭	修繕積立金					
⑮	短期運営資金借入金					

3

No	取引の内容	計上される計算書類	
		資金収支計算書	事業活動計算書
①	障害福祉サービスの利用料を現金で受領した。		
②	短期運営資金借入金を借り入れた。		
③	業務用の洗濯機（固定資産）が壊れたので廃棄した。		
④	給食材料が納品され、支払いは翌月とした。		
⑤	パソコン（固定資産）を購入して、普通預金から支払った。		
⑥	退職給付引当金を計上した。		
⑦	土地・建物賃借料を普通預金から振り込んだ。		
⑧	建物の減価償却費を計上した。		
⑨	未収補助金が普通預金に入金された。		
⑩	1年以内返済予定設備資金借入金を返済した。		